

「医者の道 自問自答で決めた」



「神の手」の須磨さん

中学生向け講演

山鹿市

「中学2年の時、
自問自答して医者
になると決めた」
と語る須磨久善さ
ん＝山鹿市

緑色の手術着を着ている夢を見た」という。その上で生徒たちに「どんな仕事も発想する心と挑む力が求められる。ゼロから1を生み出す人になって」とメッセージを送った。

講演会は、大人になる自覚を促そうと6中学合同で初めて企画された。菊鹿中の藏原佳朋君(14)は「挑戦する大切さを教えられた。自問自答して社会に貢献する仕事を見つけた」と目を輝かせた。

(潮崎知博)

世界的な心臓外科医の須磨久善さん(65)が18日、山鹿市内の全6中学の2年生436人を対象に八千代座であった立志講演会に招かれ、「自問自答して進む道を見つけてほしい」と呼び掛けた。

須磨さんは肥大した心臓の一部を切り取って縮める「バチスタ手術」に日本で初めて成功。「神の手」を持つと称され、人気テレビドラマの医事監修を務めた。天皇陛下の心臓手術を担当した天野篤医師にバイパス手術の技術も伝授した。

家族にも親戚にも医者はいなかった須磨さんは講演会で、「将来を自問自答して『人に喜ばれ、自分も幸せに